

水稲品種ツルギバにおける稲線虫心枯病の被害について

深 野 弘*・横山佐太正*

UKANO, H. & YOKOYAMA, S. On the Damage by *Aphelenchoides oryzae* to Rice Plant, with Special Reference to the Variety without White-tip Symptom

成 績

第 1 表 生育調査成績 (対照を 100 とした 接種区 の比数)

項目	調査月日	7.16	7.23	7.31	8. 6	8.14	8.21	8.28
	草 丈 葉 色		98.4 差なし	96.3** 差なし	94.4** 稍濃	92.7** 稍濃	91.5** 濃	94.2** 濃

註：(1) **は接種，対照間に有意差のあるもの。葉色は対照に対する接種区の差。

(2) 葉数，主程葉数については接種，対照間に差を認めない。

第 2 表 収量調査成績 (対照を 100 とした 接種区 の比数)

項 目	葉 次					F 検定 (処理間)
	主程	一次	二次	三次	平均	
程 長	94.8**	95.8**	93.3**	84.6**	94.7**	**
穂 数(1 株当)	100.0	96.6	101.1	77.8	98.2	
穂 長	96.1	97.4	96.1	100.7	97.2*	*
穂 重	87.0**	90.0*	88.2*	122.2	94.1*	**
最上節間長	93.2**	92.9**	97.2**	100.5	95.4*	*
粗粒数(1 穂当)	84.0**	92.2*	97.1	100.4	91.8*	**
玄米千粒重	95.7*	95.3**	94.5**	95.3	94.9**	**

註：(1) *，**は 第 1 表に同じ。

水稲品種ツルギバは，線虫心枯病々原線虫の寄生をうけても葉に病斑の出ない品種である。この品種は病斑の出ない事から抵抗性の強い品種とされているのであるが，果して無被害の品種であろうか。また実用上抵抗性品種と取扱いうる程度に強い品種であろうか。この点を究明するため本研究を行った。

方法 内径 45.5 cm，深さ 36 cm の丸型ポットに，8 株を 1 本植として栽培，挿秧直後に病粒穀を投入接種し，対照区(消毒穀投入)との間で，生育並に収量の差を検討した。ポットは接種，対照共 8 個。

考察 播種区の稲は 7 月下旬以降，対照区よりも明らかに草丈低く，葉色濃厚になった。即ち病斑以外の本病の典型的病徴を示した。収量調査の結果も，殆んどすべての収量構成要素に影響しており，粗粒数では約 8%，玄米千粒重では約 5%の何れも減少であった。従つて，品種ツルギバも，本試験のような濃厚な線虫寄生の場合には，10%以上の収量減を見るものである。

*福岡県農業試験場

第 3 表 発病調査成績

病斑発生の有無		線虫寄生穂率(%)	
接種区	対照区	接種区	対照区
—	—	99.5	0.0